

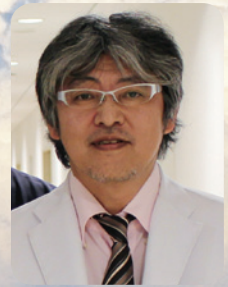
私がみた坂の上の雲

—第13弾—

新年号

心臓血管外科

主任部長 中尾達也



新年明けましておめでとう
ございます。新心会の皆様、
お元気ででしょうか？ 今回は
年末に広島に帰省でき、正月
の1月2日に松戸に到着しコ
ロナ患者が増えた東京に唾然
として、さっそく緊急手術後
に今年も副院長室で原稿を書
いている心臓血管外科主任部
長の中尾達也です。昨年も、
新心会総会や主催旅行は出来
ず皆様と時間を一緒に過ごす
機会もなく大変残念でした。

さて、2023年新東京病
院は54周年を迎え、私もここ
松戸の新東京病院の地に来て
14年になりました。心臓血管
外科ですが、池谷先生、津田
先生、栗田先生と合わせて4
人で頑張っているところで
す。今年の4月には、栗田先
生が元の築地中央癌センター
食道外科に戻り新たに2人の
心臓外科医がスタッフとして
来てくれることになりました
。頼もしい戦力として期待
しています。

2022年度の実績を報告
致します。昨年1年間の開
心術（人工心肺症例262
例、非人工心肺症例およびオ
フポンプ冠動脈バイパス手術
7例）が269例、胸部大
動脈ステントグラフト術21
例で心臓胸部大血管手術総
数は290例でした（昨年
は262例2年前が312
例）。全体的に総数は戻って
きています。低侵襲手術の柱
として腹部大動脈ステントグ
ラフト（68例）、胸部大動脈
ステントグラフト（21例）、
MICS（右小開胸、胸骨下部
部分切開）での大動脈弁や僧
帽弁手術は16例でした。胸部
真性、あるいは急性、慢性解
離性大動脈瘤などあらゆる形
態の動脈瘤に対して開始した
オープンステントグラフト手
術は、良好な成績とともに本
邦でもトップクラスの症例数
（2014年7月～2022
年12月までに289例）にな
っています。この国産ステン
トグラフトの海外とくに保険
償還が決まった台湾での普及
に、台湾の台北や台中の病院
まで足を運び技術指導やアジ
ア心臓胸部外科学会やイタリ
アでの研究会等大きな場所
での講演に積極的に努めてま
いました。このことがきつ
か

で昨年 AME Case reports
（ACR）というオンライン国
際雑誌の編集委員に指名され
ました。今年からは2カ月に
1回の雑誌編集に尽力しなけ
ればなりません。一方肺癌セ
ンター呼吸器外科や築地中央
癌センター食道外科と共同し
ての、心臓や頸部血管、大血
管にまで浸潤した肺癌、縦隔
腫瘍ならびに食道癌を手術、
治療することも引き続き積極
的に行い相互協力体制をより
信頼できる強固なものにして
います。特に今栗田先生は
この1年間で心臓外科領域で
多くの経験をされ、今では当
科でなくてはならない存在価
値を示してくれました。今後
食道領域をさらに極めるう
えで大いに今回の研修が役立つ
ことでしょう。彼を1年間当
科に預けていただいた築地中
央癌センターの大幸主任部長
には大変感謝しております。
さらに、千葉県内でエホバの
証人の心臓病患者に対して心
臓手術を提供できる唯一の施
設としての役割も引き続き務
めていきます。最近では仙台か
らも患者紹介をしていただ
いております。コロナ
禍の中、心臓手術に
かかる手術室やICU
スタッフが減り
個々の負担が増える
環境で、患者さん
を見ていただいている
すべての病院スタッ
フ、各部署（特に金

先生を中心とする麻酔科の先
生方）、各人、一人一人の御
尽力に感謝致しております。
ありがとうございます。今
年も1年、ご指導とご支援の
ほど宜しくお願い致します。
さて、還暦になった昨年は
二つの本を刊行いたしました。
ひとつは原爆の日にちな
んで8月に、再刊行本「命か
がやいて 被爆セーラー服の
涙」です。米国の雑誌「ライ
フ」誌に掲載された原爆投下
当日の広島の写真に写ってい
たセーラー服の少女を「これ
は確かに私の後ろ姿です」と
名乗り出た故河内光子さんの
生い立ちから被爆、終戦とそ
の後までを、本人の聴き取り
に基づいて広島平和記念資料
館のヒロシマピースボランテ
ィアの大西知子さんが記述し
た本です。私が河内さんの
心臓手術を執刀したご縁で
2011年の初版から制作に

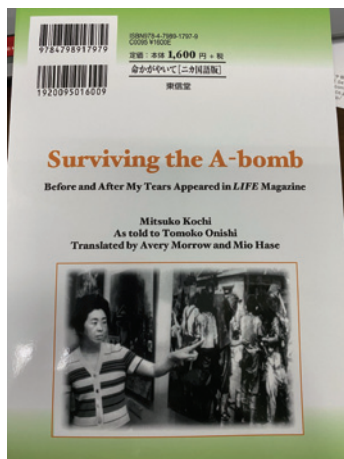


写真1:2 か国版「命かがやいて 被爆セーラー服のなみだ」
東信堂刊
英語版のタイトル「Surviving the A-bomb Before
and After My Tears Appeared in Life Magazine」



写真2：松戸駅ビルのクマザワ書店で。私の本の隣は、大ファンの五木寛之さんの本でした。感無量です。



写真3：本を真ん中にして二人の孫と。

加わり(当時は広島と松戸を
行き来しましたが)、そのう
ちに2016年5月に安倍総
理、岸田大臣とともに米国の
現職大統領として初めてオバ
マ大統領が広島にこられたり
したのを契機に広島原爆証
言として世界の多くの子供た
ちにもっと知っていただけ
ようにするには再刊行に当た
っては是非とも英語版も制作
して二か国版にする方がいい
と思ひ、それが実現した本で
す(写真1)。大西さんは、
自分の残り人生をすべてかけ
て原爆関連の出版や各地での
イベントを通しての平和活動
を損得勘定なし実直に行つて
きた人で、ウクライナのゼレ
ンスキー大統領の女性版みた
いな熱い心をもった人です。
今後とも私の立場で彼女の活
動に少しでもお役に立てれば
と考えています。

もう一つは「いのちを救ひ、
縁を繋ぐ生き方、心臓血管外
科医が時代へ伝えたいメッセ
ージ」を刊行しました(写真
2,3)。2021年の10月に
現代書林の編集者の人が3人
病院を訪ねてこられました。
私が新東京病院にきて以来毎
年書いてきた「私が見た坂の
上の雲」のコラムをホームペ
ージでみて私の文章が目につ
まつたから、本を書いてみま
せんかという熱心なお誘いで
した。現代書林からは本を書
くに当たり私にいくつかの注
文がありました。「今までに
ない医者本を、いろいろな人
に付度しないで体験したこと
をありのまま書く、奥さんや
子供のことも含めて家庭や周
囲の人のことも書く、いま私
がやっていることと読者や後
輩へのメッセージを伝えるよ
うに」などです。私も還暦を
むかえましたが還暦は何らか
の生物学的なターニングポイ
ントで人生の筋目と考えられ
ます。そのタイミングで私が
今までにその時その時に経験
した摩訶不思議な出来事や医

師である今の自分を形成して
きた環境を、そのままの内容
で隠さず読者の皆様にお伝え
できればと思ひ書くことを決
断しました。妻からは、本を
書こうと思つていると伝えた
ところ、書くことへの私の覚
悟を確認して戒めとエールを
広島からFaceTimeで送つて
くれました。12月中旬に本が
出版され、いろんな方から直
接の電話やメール、お手紙を
いただきました。広島カープ
の前監督佐々岡さんや車いす
テニスの上地結衣さんからは
外来中に直接お電話をいただ
きました。同期の先生や、何
人かの先輩の先生からは、「自
分もいつかは自分の人生を振
り返つて自分史をまとめよう
と思つています」と。「この
本は特に若い人への栄養にな
ります。この栄養は本を読み
れる人の何人かの記憶に宿り
生き続け人生の道しるべにな
る可能性を秘めています」と、
300冊を社員のために購入
していただいた社長さん。「興
味深く読ましていただきまし
た」と丁寧なお手紙を送つて
いただいた前教授。一番多い
感想は、「とにかく読みやす
くて引きこまれました」「一
気に読み終えました、読後の

清涼感を覚えました」「近年
これほど没頭して一気に読め
る本はありません」など、本
当に感謝、感謝です。ちなみ
にこの本は、まず広島県、千
葉県の公共図書館全てに寄贈
されました。多くの人に読ん
で頂けたらと思います。
本の表紙には、どこまでも
続く広大な平原のど真ん中に
に轍が残る一本の路の絵があ
ります。「道の真ん中を歩く」
という信念がこの表紙の絵に
凝集されています。この本の
装丁をしていただいた方がひ
よんなことからわかりまし
た、娘が教えてくれた11月1
日のTwitterで「ベルソさん・
装丁と読書」でツイートされ
ていました。「僕の父が緊急
で医療センターへ搬送され、
深夜に心臓外科医や看護師の
方から真摯な対応と説明を受
けた記憶がふと蘇る。皆が寝
静まつている間に命を救うた
めに格闘されていることを痛
感、この一冊がより身近に感
じます」と。この本のご縁で
素晴らしい職人さんを知るこ
とが出来ました。

昨年未だに私の高校時代の親
友(13年前に事故で寝たき
りになった)のお母さんか
ら、本の出版記念に大輪系の
豪華なコチョコウランが病院に
送られてきました。日本航空
時代の彼のことは本の中で書
いていましたが、お手紙の中
ではその後の彼の宿命を悔や
んでいました。私の母が江波
の老健施設にいたときによく
見舞いに来ていただき大変お
世話になりました。今度私の
母が亡くなった歳と同じ86歳
になるのを契機に長年営んで
きた店をやめ身辺整理して宮
島が見える「いつくしま」と
いう老健施設に入ることをお
手紙で知りました。「これか
らは道の真ん中を歩き今まで
の方々に感謝して色々皆様に
助けてもらったのを忘れず
縁を大切に生きようと思いま
す」とも記されてきました。
12月30日に広島に帰り、翌
31日に施設に会いに行きまし
た。その時「中尾君、後20年
人様を助けて上げてくださ
い」と私に言われました。
時間が決められていたので
20分位お話をして帰るとき
に、私が親友の彼と彼のお母
さんの親子のご縁を繋ぐ唯一
の人であることを認識しまし
た。他人からは寄り道ととら
れるかもしれませんが、ご縁
とはそういうものかもしれま
せん。